

序文

『エジプト学研究』第18号が出ることになりました。今回は少々分量が少なくなっていました。本来書くべき若手研究者が、きっと忙しく書く時間の余裕がないのかもしれません。それはそれで時代の流れですから私がとやかく言えるものではありません。しかし、研究者って何だろうかという本筋論を考えてみますと、研究してナンボ、その研究を発表してナンボではないかと思います。私は今年で69歳となりました。弟子の諸君が来年の古稀に向けて論集を作ってくれることになり、それに載せるため紀要分を書くのでヒマがなかったとしたら申し訳ないと思います。しかし、全て研究者は自己の尊厳を守るところが原点です。ですからその判断は誰もがしばれません。しかし、「歌唄を忘れたカナリア」は『カナリア』ではないという真実も忘れてはならないと思うのです。今私はメルマガで1週間に1万字以上書いていますが、苦痛ではなく、むしろ楽しみです。よく書くヒマがありますネと言われますが、ヒマがあるから書くわけではありません。書きたいことがあるからヒマを作るのです。この論法でいくと、若手の諸君は書きたくないのかなと思いますが、ひとりひとりの状況をみますと、きちんと自分の研究をやっている人が多いので安心します。ともかく世界一をめざしましょう。そして、それに、おくれないようにして下さい。

吉村 作治
早稲田大学名誉教授